

令和5年度県立勝田工業高等学校自己評価表

目指す 学校像	教育活動全体を通して、心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒の育成を図る。また、ものづくり教育を通して、グローバルな視点を持ち対応できる創造力を備え、地域や産業社会に誇りと愛着を持ち貢献できる生徒、自らの将来像を明確にイメージし、その実現のために具体的に行動できる生徒の育成を目指す。				
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標		達成状況
＜成果＞ ・令和4年度本校総合工学科卒業生約67%が就職(内定率100%)、33%が進学している。大学進学者が22人 ・生徒の問題行動による指導件数が少なく、頭髪服装指導における協力体制が維持されている。 ・学校行事における生徒会活動は活発であり、部活動加入率も70%程であり、運動部・文化部と共に活発に活動している。関東大会や全国大会に多数出場した。 ＜課題＞ ・基礎学力の定着と授業や学習への取組の充実及び個々の生徒の専門性を高める指導体制の確立及び定着化が必要である。 ・体系的なキャリア教育を推進し、生徒一人一人が希望する進路の実現を目指す指導の更なる充実が必要である。 ・登下校の際や校外における問題行動の未然防止に努め、生徒理解を踏まえた規範意識を育む指導を実践していく必要がある。 ・資格指導・ものづくり講習会には活発に行われた。 広報活動は積極的に行ったが、令和5年度入学選抜において志願倍率が0.84倍で募集定員割れをした。		個々の希望を実現するキャリア教育の推進	①地元企業等との連携事業や企業体験学習を拡大・充実させ、確かな学力(生きる力)を身に付けさせ主体的な進路選択ができるようにする。 ②大学等との連携事業、大学の出前授業、自校での進学補講等の充実を図り、希望する大学への合格を目指す。 ③段階を追ったキャリア教育を行うため、キャリア・パスポートの活用を通し勤労観や職業観の育成を図り、就職希望者の内定率100%、進学希望者の合格率100%達成を目指す。		B
		個性を生かしながら伸ばす充実した教育の実現	④単位制総合工学科として適切な教育課程の研究と実践に努め、授業規律の確立と基礎学力の定着に努めながら、個々の生徒の専門性の深化を目指す。 ⑤基礎資格の合格率アップを目指すとともに、電気工事士や技能検定等の高度な資格取得への挑戦者と合格者を増加させ、ジュニアマイスター取得30名を目指す。 ⑥言語活動の充実を通して、コミュニケーション能力を高め、グローバル化した社会に対応できる人材を育成する。		A
		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の実施	⑦主体的・対話的で深い学びの授業を目指し研究授業や、相互授業参観による授業改善を行う。 ⑧ICTを利用したわかる授業を目指した授業改善を行う。 ⑨生徒による授業アンケートで、「授業満足度」80%を目指す。		B
		根幹となる豊かな心の育成と安全教育の推進	⑩基本的生活習慣を確立させ、規範意識の醸成と問題行動の未然防止を図る。 ⑪施設設備の点検と安全教育を充実させ、学校事故撲滅を目指す。 ⑫ホームルーム活動の活性化と、学校教育全体を通じた道德教育の推進及び、ボランティア活動の充実を図り、いじめ問題等の未然防止に努める。		B
		部活動・特別活動の更なる活性化と主体性の育成	⑬部活動への積極的参加を奨励するとともに、生徒の自主的活動の活発化と学校行事への主体的な参加を促す。 ⑭特別活動の充実を図り、学校行事等を通して自発的・自治的な態度の育成に努める。		A
		学校内外への充実した広報活動の推進	⑮開かれた学校づくりを目指し、中学校への出前授業や公開授業を実施するとともに、学校のホームページを通して地域や保護者・中学校等へ情報を発信することで、本校の特長をアピールする。 ⑯PTA行事等の保護者への周知を図り、参加を促すことによりPTA活動の活性化を図る。		A
		教職員相互に業務内容の改善と平準化に取り組む、時間外勤務縮減に向けた意識改革と行動改革の推進	⑰各校務分掌ごとに業務内容の重複や点検と整理に努め、教職員の在校時間の適切把握と健康管理を推進する。 ⑱業務内容改善のために、指導の質の維持・向上を図りつつ継承、整理・統合、精選等を検討する。 ⑲授業準備や自己研鑽の時間を確保し、より質の高い授業や個に応じた指導を行うため、地域や保護者に理解を得ながら、学校や教員が担う業務を整理し、ICTの有効活用により、学校の実態に即した情報の共有化や会議の効率化等に努める。 ⑳茨城県の部活動運営方針及び本校の部活動等に係る活動方針により、実施環境を構築する。		B
三つの方針		具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ①心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒の育成。 ②グローバルな視点で対応できる力を備え、地域や産業社会に貢献できる生徒の育成。 ③自らの将来像を明確にイメージし、その実現のために具体的に行動できる生徒の育成を目指す。		B	短期的な目標のクリアは実行できているが、豊かな人間性を備えた地域産業に貢献できる人材の育成については、方法の充実が求められる。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ①地域との連携を図り、体験型キャリア教育を目指すとともに、自ら課題を見つけ、自ら行動できる態度の育成。 ②基礎・基本の確実な定着を図るとともに、科目選択学習による個性を伸ばす教育の実現。 ③安全教育の実践による学校生活を実現するとともに、他人を思いやる豊かな心の育成。		A	地域企業との連携は出来ているが、体験する生徒人数を増やすことが課題。
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ①ものづくりや工業的な分野に興味を持ち、深く探究しようという強い意欲のある生徒。 ②自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒。 ③規範を遵守した生活を送ることができ、学校行事、部活動などに積極的に取り組む生徒。		A	進路実現100%、各部活動の活動状況も良好。 ジュニアマイスター取得者延べ40人

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上を図る。	社会人として必要な国語常識を身につけさせるために、教科書だけでなくテキストを積極的に活用する。また、資格取得に向けた課外や、進路に合わせた小論指導などの個別指導を行う。④⑩	A	B	基礎学力向上をめざし国語常識のテキストを活用してきたが、引き続き更なる知識の定着を目指し、課題提出の習慣化をはかりたい。漢検は前年度より受験希望者が多く、実施することが出来た。今後は合格率向上へ向け、さらに指導の工夫をしていきたい。電子黒板やタブレットを活用した授業を実施したが、次年度もさらに改善していきたい。
			授業でのルール及びマナーを身に付けさせるとともに、ノート等を定期的に点検し、授業に対する真摯な取り組みを習慣づけさせる。④⑩	A		
			授業では言語活動を取り入れ、判断力や表現力、お互いを理解する力を育成する。④⑥	B		
		授業の改善を目指す。	指導方法や内容について話し合い、必要に応じてIT機器を活用するなど、授業の充実と改善に取り組む。⑥⑧	B		
	地歴	基礎学力の向上を図る。	授業を受けるマナーを向上させることで落ち着いた学習環境をつくり、基礎学力の定着を図る。④⑦	B	B	クラスルームや視聴覚教材、電子黒板でのスライド資料を積極的に活用して、わかりやすい授業を目指した取り組みを進めることができた。また、学習ノートを定期考査ごとに回収して評価するなど、教科として統一して取り組むことができたので、来年度以降も継続したい。学習内筒の理解が不十分な生徒に対する補修や課題といった指導は、積極的に開催することができなかったため、次年度以降の課題としたい。
			学習ノートを積極的に活用し、定期的に評価することで学習意欲を高める。④	A		
			学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。④	B		
		指導方法の工夫と研究を行う。	導入や教材を工夫することで学習意欲を高める。④⑨	A		
			分かる授業のために授業形態など指導方法を工夫する。④⑥	B		
			視聴覚教材や史資料を積極的に活用し、生徒の資料活用能力を培い理解を促進する。④	A		
			ICT機器を積極的に活用し、生徒の自主的な活動を促す。④⑧	A		
	公民	基礎学力の向上を図る。	授業を受けるマナーを向上させることで落ち着いた学習環境をつくり、基礎学力の定着を図る。④⑦	B	A	クラスルームや視聴覚教材、電子黒板でのスライド資料を積極的に活用して、わかりやすい授業を目指した取り組みを進めることができた。さらに、現代に即したテーマを扱うことで、生徒の興味を引き出し、学習意欲を喚起することができた。また、学習ノートを定期考査ごとに回収して評価するなど、教科として統一して取り組むことができたので、来年度以降も継続したい。学習内筒の理解が不十分な生徒に対する補修や課題といった指導は、積極的に開催することができなかったため、次年度以降の課題としたい。
			学習ノートを積極的に活用し、定期的に評価することで学習意欲を高める。④	A		
			学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。④	B		
		指導方法の工夫と研究を行う。	導入や教材を工夫することで学習意欲を高める。④⑨	A		
			視聴覚教材や史資料を積極的に活用し、生徒の資料活用能力を培い理解を促進する。④	A		
			ICT機器を積極的に活用し、生徒の自主的な活動を促す。④⑧	A		
	数学	基礎学力の向上を図る。	基礎学力が定着していない者や成績不振者に対して、学力向上を助けるため補習を行う。④	A	A	・入学時点での学力の低さや、その後の学習意欲の低さにより、基礎学力を定着させることが難しい生徒が一定数いる。教科の先生は基礎学力定着のため、個別指導や補講など最大限の努力をしている。 ・数学検定の検定料が引き上げられたこともあり、受検者が減少している。
			定期的な課題の提出や、小テスト等を利用し学習の理解度を確認する。④	A		
			机間指導を通して、学習の遅れがちな生徒を把握して補足説明を随時行う。④	B		
		生徒希望に応じた学力の向上を図る。	より深い内容の学習を希望する生徒のために、課外や検定試験を実施する。②	A		
	理科	基礎学力の向上を図る。	問題演習や小テスト等を実施することで、生徒達の理解度を把握しながら個に対応した基礎学力の向上を目的とする。④	A	A	・問題演習や小テストを積極的に取り入れ、基礎学力の向上を図ることができた。 ・興味関心を深めるために、生徒が主体的にタブレットを活用する仕掛けや探究活動を、もう少し取り入れると良かった。 ・ICTを活用した説明や、生徒の実態を話し合うことで、生徒が理解しやすい授業改善に努めることができた。
		理科に対する興味・関心を深めさせる。	科学技術が人間生活に果たした役割を意識させるために、日常生活との関わりを軸とする事を通して、理科に関する興味・関心を深め、主体的な学びへの態度を身に付けさせる。④⑦	B		
		生徒が理解しやすい授業への改善に努める。	生徒の実態に応じた授業をするために、授業の内容・説明・板書・電子黒板等の方法について授業担当者間で話し合い、生徒への理解をすすめる。④⑧	A		

教科	体育	自己の基礎体力の向上を図る資質・能力を育成する。	体力テストでの目標設定を明確にし、意欲的に取り組ませる。運動量をできる限り確保し体力の向上を図る。	④	A	A	中学時代運動する機会が少なかったことにより体力が落ちていたように見受けられた。活動できる時間は確保できているが中学から運動されていない部分が多いため球技をはじめ基本的な部分からの指導が必要とされていると感じる。継続した指導をし生徒一人一人が主体的に取り組めるよう努めていきたい。
		運動の実践による運動の多様性・体力の必要性を理解させる。	球技において種目を選択させ、生徒達で練習計画を立てて競技を進める能力を身に付けさせる。競技特性を理解し、取り組みを通して協力する態度を養う。	④	B		
		生涯を通じて運動に親しんでいく能力や体力を育てる。	球技において種目を選択させ、生徒達で練習計画を立てて競技を進める能力を身に付けさせる。競技特性を理解し、取り組みを通して協力する態度を養う。マラソンの授業を通じて体力の向上と運動を習慣化できるようにする。	⑦・⑧	A		
		個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに自他や社会の課題を発見する。	日常生活における健康や安全について関心を持ち自己の健康管理・安全行動に活かすことが出来る。	⑥・⑦	B		
		生涯を通じて健康な生活を送ることが出来る資質や能力を育てる。	保健ノートを定期的に提出させ点検し、健康についての理解を深めさせる。社会の状況や時事についての関心を高め、教科学習に活かす。	④⑦	A		
	芸術	一人一人の個性を生かしながら伸ばすことができる授業に努める。	授業を受けるマナーの向上を定着させ、課題に対して落ち着いて取り組める雰囲気づくりに努める。	④	B	B	作品の提出率は100%となり、全ての題材において全員期日までに提出することができた。またアクリル絵の具や油絵具、彫刻刀等の道具の基本的な使い方は概ねできるようになった。その一方で、作品の充実感、より完成度の高い作品の制作へは課題が残る。より具体的に個人に合ったアプローチを探っていきたい。
			美術Ⅰ、Ⅱの授業においてアナログ作品もデジタル作品問わず、また、絵画・デザイン・立体などの分野を問わず、一人一人の技術向上を目指す。	④	A		
		安全教育の徹底。	材料・用具類の整備と管理を確実に行うと共に、正しい使い方や活動前の準備と後片付けなどの指導を徹底する。	⑧	B		
	英語	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけさせ、基礎的な能力を身につけさせる。	毎時の授業を通して、円滑なコミュニケーションのとれる生徒を育てる。	③	B	A	・指導と評価の一体化を図り、共通理解を基に3観点別評価をする。 ・英検受験者の確保に努め、新しい英検に対応した対策指導をする。
			分かりやすい授業を工夫し、基礎的な文法力と語彙力を身につけさせる。	④⑦	A		
			リスニング検定などを有効に活用し、実践的な英語力を身につけさせる。	④	A		
		異文化理解を深める。	ALTとのTeam-Teachingや英語による授業を展開することにより、英語に多く触れさせる。	⑥	A		
	家庭	自分の生き方に関わる内容を学習することで、常に「今」より充実向上した生活が図れるような能力と実践力を育む。	生涯発達の視点で、家族や家庭生活のあり方を理解させ、よりよい家庭を築いていくことの重要性を認識させる。	④	B	B	課題作成や実習等でICTを利用することができたが、さらに活用する余地がある。また、将来を見据えて考えられるよう具体的事例を提示しているが、内容の精選が必要である。
			家族の生活が健康で安全に営むことが出来るように、ICTを利用して衣・食・住・環境・消費生活に必要な知識と技術を習得させる。	④⑧	A		
			ホームプロジェクトを通して、家庭生活の改善向上のため主体的解決をはかる実践力を身に付けさせる。	④⑥	B		
教科	総合工学	教科指導の充実を図り、基礎・基本の定着と専門性の向上に努める。	工業の基礎・基本となる重要項目を習得させるために、各種教材やICT機器等を活用した分かりやすい授業を展開する。生徒の視点に立った授業改善に取り組む。指導計画の中で、主体的・対話的で深い学びの観点から授業改善に取り組む。	④⑦⑧	A	A	実習においてもタブレットを活用する機会が増えてきたが、分かりやすい授業と有効的なICT機器の活用について検証する必要がある。老朽化・消耗している設備・機器もあり、計画的に保守整備や更新していく必要がある。各種資格取得指導における指導体制の構築が必要である。
			実習を通して専門的な技術・技能の習得に努めるとともに、地元産業界や大学・専門学校等と連携しキャリア教育の充実を図る。生徒の視点に立った授業改善に取り組む。指導計画の中で、主体的・対話的で深い学びの観点から授業改善に取り組む。	①②③	A		
		安全教育の徹底と施設・設備の維持管理に努める。	安全教育を徹底し災害防止に努めるとともに、実習服や保護具の正しい着用と安全作業(知識・技能・態度)について指導する。	⑦⑪	A		
			実習室等の整理整頓と施設・設備の安全点検を定期的実施するとともに、カリキュラムに対応した施設・設備の充実を図る。	⑪	A		
		各種資格取得を奨励する。	各種資格取得指導において中長期的な計画に基づいた指導により合格率の向上を図る。	⑪	B		

	道徳	自他の生命や人権を尊重する精神と、公共のマナーについて考えさせる。	基本的な生活習慣の確立と集団としての自覚をもち、善悪の判断ができる生徒の育成を目指す。	⑦	B	B	・今年度より、授業の形での「道徳」は実施しなくなったため、日々の生活や授業、部活動などの中で、道徳を伝える形となった。 ・他校での「道徳」の公開授業の情報を提供した。 ・定期考査後に、特別活動部主催で運動部校外清掃を実施し、地域社会に対する積極的な奉仕を行うことができた。
		何事にも誠意をもって取り組み、やり遂げることの重要さを意識させる。	本校の校訓である「正しい判断・強い意志・清い生き方」に自覚と誇りをもち、将来地域社会に対して積極的に奉仕できる人間の育成をめざす。	⑨	B		
教務		新教育課程の円滑な実施。	教育課程検討委員会を中心に、各校務分掌・教科・年次と連携を図り、授業・評価方法等の改善と円滑な教育課程の実施を推進する。教育課程委員会を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の実施・推進に努める。	④⑦	A	A	・授業改善活動の実施・推進に努めるとともに、教育課程検討委員会において授業・評価における問題点の抽出や改善。 ・広報委員会を中心に各分掌・年次・教科と連携し、中学生対象の説明会、体験活動、中学校訪問等の継続。 ・校務支援システムの管理・運用について理解を深めるとともに、連携強化による業務改善。
		学校PR・広報活動の充実。	広報委員会を中心に各分掌・各教科と連携し、中学生対象の学校説明会、部活動体験、中学校訪問等を計画的に実施する。また、学校パンフレットや学校HP等の広報資料の充実を図る。	⑮	A		
		校務支援システムの活用と情報管理部との連携協力。	情報管理部との連携協力体制を強化し、校務支援システムの運用整備、改善を図る。特に、出欠登録・成績処理・要録作成業務等を円滑に行えるよう、連携を図る。	⑱	B		
情報管理		各種管理システム運用の推進。	校務支援システム運用に向けた作業マニュアルの策定。欠席連絡システムの管理運用の推進。緊急情報メールの利用および登録者の管理。教育情報ネットワークシステム(GoogleApps)を活用した授業支援等。	④	A	B	・校務支援システムの管理・運用について学年や分掌への周知徹底を図る。分掌や学年情報管理委員との円滑な連携教科による業務改善。 ・校務端末の適切な管理および更新、設備機器の適切な点検と必要部署への機材供給。 ・ホームページによる情報発信を内容に応じて分散し適宜行ってきた。今後の課題として、適切なタイミングかつ効果的な情報発信方法を検討する必要がある。
		個人情報取扱規程の整備。	校内個人情報情報の取り扱いについて、持ち出し禁止区分を明確化(禁帯出管理の徹底)。セキュリティ実施手順書に付随する各種利用規定等の徹底。	⑧	B		
		インターネットを活用した広報活動の推進。	本校Webページの更新を行い開かれた学校づくりを目指し、本校の特徴をアピールする。見やすいホームページの作成および外部への本校の特徴や生徒の活躍等の積極的な情報共有。	⑫	A		
		ICT機器の積極的な授業および校務での活用推進	タブレット端末を利用した授業支援ならびに校務支援。電子媒体による情報伝達および情報共有。学校教育に関係するそれぞれのデータを重複して入力せず、便利に利活用でき	⑬	B		
庶務		PTA総会等各種行事の連絡を、PTA会員やPTA役員に対し確実に言い、連携を密にする。	PTA総会等各種行事の連絡を、できるだけ早い時期に確実に、PTA会員やPTA役員に対して言い、各種行事等への参加率を高める。	⑯	A	A	・PTA役員の確保に努める ・各種行事等の充実を図る
			PTAの広報紙を通して、学校の教育活動やPTA活動を工夫しPRする。	⑮	A		
学習指導		基礎学力の向上と定着を図る。併せて進学希望者に対し学力の向上を目指す。	更なる学力の向上につなげるために、1年次に基礎学力を重視した指導をする。学年と協力し、ICTを用いての基礎学力の定着を図る。進学希望者について進学課外・出前授業への参加を通し、進学に対しての意欲を高めるとともに、学習にたいする意識を強める。	②④⑧	B	B	資格取得に向け多くの生徒が頑張っている。ジュニアマイスター顕彰制度では、特別表彰2名が出るなど、例年と同様の結果を出すことができた。 基礎学力向上については、生徒の自主性を踏まえた指導ができたものと考えられる。 2年次、3年次の選択科目において人数制限の検討をする必要があると思われる。 大学出前授業も、ほぼ計画通りに実施することができた。
		選択制を活かして、学習意欲の向上と専門性の深化を目指す。	卒業後の進路を生徒が考える際、進路につながる科目の選択を考えさせるようにし、進路に関わる学習に対しての意識を高めるとともに、保護者との連携を密にする。	④	B		
		資格について啓蒙し、推進する事を目指す。	進路との連携や顕彰制度を利用することで生徒の資格取得への意欲を刺激する事で、意識を高める。	⑤	A		
特別活動		学校内外への広報活動の推進	学校のホームページを通して地域や保護者・中学校等へ情報を発信し、本校の生徒会活動や部活動の特長をアピールする。	⑮	A	A	様々な行事が以前と同じに出来るようになったが、今まで以上に柔軟な対応をし、工夫を重ねることで行事をスムーズに行えるようにしたい。 生徒会はよく頑張っているが、さらに中心となって自発的な活動を出来るように促していきたい。
		ホームルーム活動を活性化させる。	年間計画に基づき各ホームルームの活性化を図るとともにより一層具体的な活動が行えるように努める。また、各分掌から出されるテーマをLHRに反映し効率的な学級活動を展開する。	⑫	A		
		部活動への積極的参加を促す。	各部活動資料を活用し、実演などを取り入れたPRを行う。また、部活動参加率が全生徒の70%以上になるように働きかけ、参加率の増加と意識の高揚を図る。	⑬⑭⑰⑱	A		

生徒指導	基本的な生活習慣と規範意識の確立を図る。	基本的な授業態度の育成、学習習慣の確立、遅刻の減少を図る。(遅刻カードの活用)	⑩⑫	B	B	・自転車運転に関するルールやマナーについて指導してきたが、ヘルメット着用推進も踏まえて今後も継続して指導していきたい。 ・頭髪、服装指導における柔軟な対応は前年度よりも取り組めた。今後も各年次と連携して支援体制を充実させていきたい。 ・SNSに関するトラブルは少なかったが、生徒間の接し方でのトラブルが増加してきた。次年度については、教員間の連携と情報交換を密にしていじめ防止と同様にチームとして対応できるように働きかけていきたい。
		登校指導・昼休みの巡視を1日2名で通年実施する。また定期考査期間中に生徒の帰宅状況を確認するために校外巡視の実施する。	⑩	B		
		HRにおける交通安全教育、交通講話(外部講師)の実施することや、自転車点検、生徒による街頭指導を行うことにより交通マナーやルールを守る心を育て、命の大切さを呼びか	⑩⑫	A		
		薬物乱用防止教室を実施して身体における有害性と薬物中毒の怖さを指導する。	⑩⑫	A		
	将来社会人として必要とされる容儀等について規範意識の高揚を図る。	服装容儀等を指導する機会を設け、全職員で生徒の自主性を持たせながら社会における規範意識と自立を促す。	⑩	B		
		学校教育全体を通じた道徳教育を推進する。	⑩⑫	A		
進路指導	望ましい職業観・勤労観を育成する。	学年と連携し、キャリアパスポートを利用した計画的な進路指導を1年次より行い、自己の能力・適性を生かし望ましい職業観を育成する。	①②③	B	A	・キャリアパスポートの活用は学年と協議しているが、有効活用には至っていない。 ・3年生の就職希望生徒は、ほぼ内定となり成果は達成できたが進路選択指導に模索が必要である。 ・進学者も、ほぼ希望通りの成果が得られたが安易に専門学校等を選択する生徒もあり進路指導の充実を図りたい。 ・地域や保護者との連携は以前と同様であった、今後もより充実した連携を模索する。
		インターンシップや進路セミナーなどを通して、職業観・勤労観の形成に努める。	①②③	A		
	生徒一人ひとりの進路希望に応じた進路指導の充実を図る。	企業への求人要請を進めるとともにそれぞれの企業が求める人材の的確な把握に努め、就職希望者の早期合格内定率100%を目指す。	①③	A		
		進学希望者が学部学科を適切に選択できるよう大学・専門学校との情報交換を進める。	②	A		
		3年次との連絡を密にし、保護者会や三者面談で進路に関する情報を積極的に提供する。	①②③	B		
	地域との連携を深め、地域が求める人材育成を図る。	ひたちなか市や学校評議委員会等との連携を図り、企業が求める人材を育成するとともに、就職時のミスマッチの解消や早期離職の防止に努める。	①	B		
保健指導	危険防止と環境整備のために清掃活動や校内安全点検を継続実施する。	環境整備委員を中心に、全学年一斉清掃・環境整備に取り組む。また、安全点検表を利用して清掃分担ごとに月一回の点検を行い、改善すべき箇所がある場合には迅速に対応する。	⑪	A	A	・校内の安全・衛生と、生徒・職員の健康な生活を維持するための取り組みを引き続き行う。 ・感染症対策の徹底と啓発を図る。
	生命尊重に関する教育の実施。	勝工安全の日に、全校生徒を対象として、生命尊重に対する講話を実施する。さらに1年次を対象に、専門講師を迎えて性教育・救命救急(AED)講習を実施する。	⑫	A		
	病気やけがを予防するための対策の充実。	病気やけがについて、正しい知識と現状に合った情報伝達を心掛ける。また、感染症対策を継続する。	⑩	B		
図書	情報提供サービスの向上と充実を図る。	レファレンスサービス、リクエスト予約サービスの充実に努める。	②④⑤	A	B	・令和6年度の芸術祭の演目を決定することが出来た。当日に向け他の部署との連携を図りたい。 ・読み聞かせ体験実施に向けた検討を行う。
		生徒の知的好奇心と興味を抱かせる書籍の選定と購入に努める。	④⑧	A		
	図書委員会活動と行事の充実を図る。	図書委員会活動を通じて図書館とクラスのパイプ役としての意識を高める。	⑫⑭	A		
		読み聞かせ体験を通じた幼稚園との交流により社会性を学ぶ。	⑫⑭⑮	C		
		読書会や研修会、芸術鑑賞会等の行事の充実に努める。	⑭	B		
	施設の有効利用と環境整備の充実を図る。	自学自習の場としての図書館の利用を促進する。	①②③	A		
		利用簿等の活用により、授業・LHR等で視聴覚室の利用促進を図る。	④⑫	B		

1年次	基礎的・基本的な知識・技術・技能を身に付けさせる。	真摯な態度で授業に臨ませる。提出物の期限を守らせる。資格・検定試験に意欲的に取り組ませる。家庭学習を習慣化する。	③④⑤	B	B	・概ね授業に臨む態度は育成できたが、提出物等の提出や取り組みに課題が残る生徒もいた。 ・ルールやマナーを守れない生徒に対して積極的に学年として指導に取り組んだ。 ・全体としては、学校生活に慣れて取り組む生徒が多くなったが、取り組めない生徒を今後指導していくことが課題。
	基本的生活習慣を確立させ健全な高校生活を送らせる。	時間を守り、自主的に挨拶・返事ができるようにする。身近なルールやマナーを守らせ、安全で安心な高校生活を送らせる。	⑩⑫	B		
	協調性や他人を思いやる豊かな心を育てる。	積極的に学校行事に参加させ、協調性や思いやりを身に付けさせるとともに、集団生活の中で責任ある行動がとれるようにする。自分の存在意義を認識させる。部活動に積極的に参加させる。	⑥⑦⑪	A		
2年次	健康管理に心がけ、何事にも全力で取り組むことのできる意欲と体力を育成する。	自己管理能力を養う。規則正しい生活ができるように高校生としての自覚を持たせ、規範意識の向上に努める。また、社会的信頼の大切さを認識させる。毎日の清掃と教室の整理整頓を徹底させる。	⑩	A	A	生徒はおおむね、挨拶や時間を守るなど基本瀧生活習慣の確立に努めることができた。一部の生徒は心身の調子を崩し、欠課時数を増やしたが、丁寧できめ細かい指導を重ね改善の方向に向かっている。学習習慣が十分に身につけていない生徒が多く、スタディーサブリの活用や、タブレットの効果的な利用を促していきたい
		高校生活における身体的・心理的な安全を最優先させる。そのため保護者との連携を密にとるよう努める。	⑩⑪⑫	A		
	将来を見通し、高校生活の中で得られる知識・技術・技能の習得に努めるとともに、豊かな社会性を身に付けさせる。	ICTを活用した分かる授業を目指し、進路希望に応じた学習を推し進めることを通じて、基礎力の充実を図る。また、資格取得を通じて知識・技術・技能のより高い習得を目指す	④⑥⑧	B		
		部活動や学校行事への積極的な参加を呼びかけ、委員会や係の仕事・クラスマッチ・修学旅行等を通じて学校やクラスへの帰属意識を持たせる。	⑫⑬⑭	A		
		インターンシップ・工業現場実習・企業見学等を通して職業意識を持たせ、進路決定の準備を始めさせる。	①③⑥	B		
3年次	一人一人の適性を踏まえた上で、具体的な進路目標を現実のものとしていく。	進路指導部と連携し、社会の現状を把握するとともに、適性検査結果や面談での助言等をもとに、生徒に自分自身の適性を冷静に判断させ、その能力・適性に応じた進路指導を推し進める。	①②③	A	A	○生徒の自己分析・自己理解を面談や進路希望調査等を通じて促し、早期から真剣に取り組ませるようにする。 ○進路決定後、卒業までの生活の乱れや学習意欲の減退を防ぐため、適宜面談や声掛け、保護者等と連携を図り粘り強い支援・指導に努めていく。
		保護者と密な連携を取りながら、学校生活の安全を最優先させ、きめ細かい助言をしていく。	⑩⑪	A		
		授業に真剣に取り組むことにより、知識・技術・技能のさらなる習得に努めさせる。また、ICTを活用した分かる授業を目指し、進路希望に応じた学習を推し進めることを通じて基礎力の充実を図る。	④⑥⑧	B		
	ひとりの人間としての社会常識を身に付けさせることはもちろんのこと、他人を思いやる心を育てる。また必要に応じて我慢強さと忍耐力を発揮できるようたくましさを育成する	校則や公衆道徳を尊重し、進んで守ることにより、社会規範意識の向上を図る。	⑩⑫	B		
		挨拶を励行し、他人への思いやりを忘れない心をさらに育てる。	⑫⑬⑭	A		
学校運営	豊かな心の教育の充実を図る。	学校行事や特別活動での細やかな生徒指導を通して、基本的生活習慣を確立し、倫理観や規範意識を高めるとともに、いじめなど問題行動の未然防止に努める。	⑩⑫	B	B	○道徳の授業が無くなって、「公共」の授業だけでなく全ての機会を捉えて心の教育を充実させることが重要 ○情報教育は計画通り働きかけられたが、国際理解教育は機会が少なかった。 ○積極的な広報活動と、小学校への出前授業も実施できた。 ○地元企業と商工会議所、大学と連携が図れた。内容を充実させ生徒のキャリア教育につなげることが重要
	情報教育と国際理解教育の推進を図る。	授業や各種行事を通じて情報教育と国際理解教育を積極的に推進する。	④⑥	B		
	地域の中学校との連携を図る。	地域の中学校と出前授業や交流事業など積極的な広報活動を通じて中学校との連携を図る。	⑮	A		
	地元企業や大学等との連携を推進する。	地元企業や大学等との連携を更に推進し、進路指導・キャリア教育の充実を図る。	①②③	A		

※評価基準： A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない